

浜の活力再生プラン
令和6年～10年度
第3期

1 地域水産業再生委員会 ID1122011

組織名	兵庫県地域水産業再生委員会 湊漁協部会
代表者名	北濱 紀義 (湊漁業協同組合 代表理事組合長)

再生委員会の 構成員	湊漁業協同組合、南あわじ市、兵庫県淡路県民局
オブザーバー	兵庫県漁業協同組合連合会

対象となる 地域の範囲 及び 漁業の種類	【地域の範囲】南あわじ市松帆、湊、津井（湊漁業協同組合の地区） 【漁業の種類】定置網漁業9経営体（10名）、小型底びき網漁業3経営体（3名）、機船船びき網漁業2経営体（5名）、刺網漁業5経営体（5名）、タコつば漁業9経営体（9名）、その他漁船漁業10経営体（ひきなわ漁業7名、かご網漁業3名、計10名）、ノリ養殖業1経営体（3名）、ワカメ養殖業1経営体（3名） 合計 22 名（令和5年4月1日現在） ※兼業漁業者がいるため、各漁業種類漁業者数と合計人数は一致しない
-------------------------------	---

2 地域の現状

(1) 関連する水産業を取り巻く現状等

当部会の地域は、播磨灘に面する淡路島南西岸に位置し、定置網漁業、小型底びき網漁業、機船船びき網漁業、刺網漁業、カゴ網漁業などの漁船漁業と、ノリ、ワカメの養殖漁業が営まれており、イカナゴ、イワシシラス、マダイ、スズキ、アジ類、マダコ等、四季を通じて多種多様な水産物が水揚げされている。令和4年の水揚総取扱高は数量 291 トン、金額 1 億 5 千万円であった。

しかしながら、コロナ禍による水産物消費の減少と魚価安、漁場環境の悪化によるカレイ、エビ類などの底魚資源の激減など、漁船漁業を取り巻く状況は厳しく、藻類養殖業においても、温暖化による海水温の上昇や栄養塩の低下などにより、生産性が低下してきている。

また、漁船の燃料価格の上昇、資材の高騰による経費の増大が、漁業者の経営を圧迫している。さらに、廃業による組合員減少、新規担い手の不足や高齢化により、漁業経営及び漁業協同組合経営の悪化が懸念されている。

このため、持続的な漁業の構築に向けて、資源管理の徹底や栽培漁業の発展、就業者の確保など、地区の漁業者が一丸となって取り組む必要がある。

(2) その他の関連する現状等

地域全体で高齢化や人口減少が進んでおり、地域経済を支えている漁業が衰退することにより、地域の活気も失われつつある。このため、漁業を再生させることにより、地域全体の繁栄を取り戻す必要がある。

また、当地域は高速道路へのアクセスも良く、夏になると阪神方面からの海水浴客でにぎわう「慶野松原」が存在し、地域の活性化には、こうした地域資源を生かした取組が必要であると認識されている。

3 活性化の取組方針

(1) 前期の浜の活力再生プランにかかる成果及び課題等

(2) 今期の浜の活力再生プランの基本方針

1 漁業収入向上のための取組

(1) 漁獲物の品質向上による魚価向上

- ① 船びき網漁業を除く漁船漁業者は、低温管理を徹底すること等により鮮魚の鮮度保持に努める。同取組を継続することにより魚価向上が期待できることから、引き続き取り組んでいくこととする。
- ② 船びき網漁業を除く漁船漁業者は、海水冷却機の活用により低温管理を徹底すること等により活魚の活力保持に努める。同取組を継続することにより魚価向上が期待できることから、引き続き取り組んでいくこととする。
- ③ 船びき網漁業者は、漁獲物の冷却効率を向上させ鮮度保持に努める。同取組を継続することにより魚価向上が期待できることから、引き続き取り組んでいくこととする。
- ④ ノリ、ワカメ養殖業者は、漁場利用や漁場環境の改善の取組により、色落ちの発生を抑制することで品質を向上させ、単価の向上を図る。色落ちを防止するには、同取組を継続することが有効と考えられることから、引き続き取り組んでいくこととする。

(2) 地元消費の拡大

- ① 農畜水産物直売所「美菜恋来屋」へ地元水産物を出荷し、地元住民等の購入機会を増やす。同取組は、消費拡大の効果が期待できることから、引き続き取り組んでいくこととする。
- ② 水産まつり等イベントの開催などの PR 活動により、消費拡大を図る。同取組は、消費拡大の効果が期待できることから、引き続き取り組んでいくこととする。

(3) 資源管理と漁場環境の保全により生産量の増大

- ① 全漁業者は、ナマコ増殖場等の設置、各有用魚種の放流や資源管理の取組みに参加し、資源の増大を図る。同取組は、資源増大の効果が期待できることから、引き続き取り組んでいくこととする。
- ② 全漁業者は、海底耕耘、海岸清掃等、漁場環境の保全にかかる活動を推進し、豊かな海の再生を図る。栄養塩が豊富な豊かな海を再生するには、同取組が有効であると考えことから、引き続き取り組んでいくこととする。

(4) 海業により漁業者の収入の拡大

- ① 観光業者等と連携し、観光地引網体験を実施することにより、漁業収入の増加を図る。
- ② 休漁期に遊漁船業の営業を行うことにより、収入の増加を図る。

2 漁業コスト削減のための取組

(1) 省エネ活動等による省コスト化

航行時の低速運転、省エネ型エンジンの導入等により、燃料費の削減を図る。同取組は、省コスト化に有効であることから、引き続き取り組んでいくこととする。

(2) 共同利用施設の見直し

老朽化した共同利用施設の見直しを行う。

3 漁村の活性化のための取組

(1) 漁業人材確保・育成

研修制度、漁協青年部活動の充実により、漁業人材の確保、育成を図る。

(2) 交流人口の拡充

観光地引網や新たな海業を企画することにより交流人口の拡大を図る。

(3) 資源管理に係る取組

- ① 漁船漁業は、小型定置網・小型機船底びき網・刺網・たこつぼ漁業資源管理計画に基づき、漁獲物の体長制限、操業時間及び期間の制限、休漁等を遵守する。
- ② 兵庫県知事が認定した資源管理協定に基づく自主的資源管理措置の実施による資源保護
- ③ 共同漁業権行使規則に基づく制限の徹底による資源保護
- ④ ノリ養殖については兵庫県のり養殖漁場改善計画に基づく生産対策等を遵守する。

(4) 具体的な取組内容

1 年目（令和 6 年度） 所得向上率（基準年比） 7. 1 %

漁業収入向上のための取組	(1) 漁獲物の品質向上による魚価向上 ① 船びき網漁業を除く漁船漁業者は、アジ類やサバ類などの多獲性魚を初めとした鮮魚漁獲物は、漁獲時においては魚種別に容器に入れ、大量の水を使い漁獲時の施氷による低温管理を徹底するとともに、水揚げ後の選別は手早く丁寧に行うことにより鮮度保持に努める。 ② 船びき網漁業を除く漁船漁業者は、マダイやヒラメなどの活魚については、高水温となる夏期には、清掃を徹底した清潔な活魚槽において、海水に酸素を供給しながら、漁協が導入している海水井戸と海水冷却機の活用により水温を 20～22 度として低温管理を徹底し、活力保持に努める。また、ロス（死魚）が出やすく魚価の下落に繋がるため、操業中の網からの取り入れを丁寧に行い、活魚槽に収容する際にはハリ（浮袋の空気抜き）をし、1 操業で持ち帰る漁獲量の調整を行う。 ③ 船びき網漁業者は、シラスについて、1 曳網にかかる操業時間を短縮し、1 操業での漁獲量を調整するとともに、瞬時に大量の水でしめ、漁獲物の冷却効率を向上させ鮮度保持に努める。 ④ ノリ、ワカメ養殖業者は、養殖セットの間隔を拡大して設置することで潮流がまんべんなくあたるようにしたり、海底改良剤を散布する。また、地元の農業者と協力して「ため池」に堆積した栄養豊かな泥を漁場へ供給する「かいぼり」を実施して、色落ちの発生を抑制することで品質の維持向上を目指す。 (2) 地元消費の拡大 ① 漁協は、全漁業者と協力し、農畜水産物直売所「美菜恋来屋」へ鮮魚等地元水産物を出荷し、地元住民等の購入機会を増やす。 ② 漁協は、地元行政機関と連携して、水産まつり等イベントの開催などの PR 活動により、消費拡大を図る。 (3) 資源管理と漁場環境の保全により生産量の増大 ① 全漁業者は、漁協と地元行政機関と協力し、ナマコ増殖場設置、アオリイカ産卵床設置、産卵用タコツボ設置、マコガレイ、カサゴ、キジハタ、オコゼ等の有用種の放流等の栽培漁業や資源管理の取組みに参加し、資源の増大を図る。 ② 全漁業者が、魚種の豊富な漁場を維持・回復させるため、海底耕耘、海岸清掃、施肥等、漁場環境の保全にかかる活動を推進し、稚ナマコの放流、た
--------------	--

	め池のかいぼり、各種団体で行われる森づくり活動の取組等に参加し、豊かな海の再生を図る。 (4) 海業により漁業者の収入の拡大 ① 修学旅行生や都市部住民をターゲットに旅行会社や地元観光業と連携し、観光地引網体験を推進することにより、漁業者の収入を増やす。
漁業コスト削減のための取組	(1) 省エネ活動等による省コスト化 ① 全漁業者は、漁場への行きかえりの低速運転、係留中のエンジン停止、不要不急な積載物の削減による船体の軽量化、定期的な船底の清掃による航行抵抗の軽減など徹底した省エネ運転を励行することにより、使用する燃費量の削減を図る。 ② 最新の省エネ技術を活用した省エネ型エンジン、省エネ機器の導入を計画的に推進する。 (2) 共同利用施設の見直し ① 漁協は、共同利用設備の維持管理を削減するため、老朽化した設備（クレーン1基）を修理するか、処分をする。
漁村の活性化のための取組	(1) 漁業人材確保・育成 ① 地域の漁業の魅力を積極的に PR するとともに、初心者でも漁業ができるようになる研修制度を充実させて、新規漁業就業者の確保・育成を図る。 ② 新規就業者の確保、若手漁業者の育成を促進するための漁協青年部の活動を支援する。 (2) 交流人口の拡充 ① 旅行会社や観光業等の民間活力を活用した新たな海業を企画推進することにより、地域全体での観光振興を図る。 ② 漁協と若い漁業者は、観光地引網を推進することにより、地域への集客向上を図る。
活用する支援措置等	(漁船、漁業用機器等の導入) 水産業競争力強化漁船導入緊急支援事業（水産業競争力強化緊急事業） 競争力強化型機器等導入緊急支援事業（水産業競争力強化緊急事業） 水産業成長産業化沿岸地域創出事業 (漁業経営) 漁業経営セーフティネット構築事業 漁業収入安定対策事業 (共同利用施設の整備) 水産業強化支援事業 水産業競争力強化緊急施設整備事業（水産業競争力強化緊急事業） (就業支援) 経営体育成総合支援事業 (その他) 水産多面的機能発揮対策事業

2年目（令和7年度） 所得向上率（基準年比）10.7%

漁業収入向上のための取組	(1) 漁獲物の品質向上による魚価向上 ① 船びき網漁業を除く漁船漁業者は、アジ類やサバ類などの多獲性魚を初めとした鮮魚漁獲物は、漁獲時においては魚種別に容器に入れ、大量の水を使い漁獲時の施氷による低温管理を徹底するとともに、水揚げ後の選別は手早く丁寧に行うことにより鮮度保持に努める。前年の結果を踏まえ、施氷手法を改善しながら取り組んでいく。
--------------	--

	② 船びき網漁業を除く漁船漁業者は、マダイやヒラメなどの活魚については、高水温となる夏期には、清掃を徹底した清潔な活魚槽において、海水に酸素を供給しながら、漁協が導入している海水井戸と海水冷却機の活用により水温を20～22度として低温管理を徹底し、活力保持に努める。また、ロス（死魚）が出やすく魚価の下落に繋がるため、操業中の網からの取り入れを丁寧に行い、活魚槽に収容する際にはハリ（浮袋の空気抜き）をし、1操業で持ち帰る漁獲量の調整を行う。前年の結果を踏まえ、低温管理方法を改善しながら取り組んでいく。 ③ 船びき網漁業者は、シラスについて、1曳網にかかる操業時間を短縮し、1操業での漁獲量を調整するとともに、瞬時に大量の水でしめ、漁獲物の冷却効率を向上させ鮮度保持に努める。前年の結果を踏まえ、冷却方法を改善しながら取り組んでいく。 ④ ノリ、ワカメ養殖業者は、養殖セットの間隔を拡大して設置することで潮流がまんべんなくあたるようにしたり、海底改良剤を散布する。また、地元の農業者と協力して「ため池」に堆積した栄養豊かな泥を漁場へ供給する「かいぼり」を実施して、色落ちの発生を抑制することで品質の維持向上を目指す。前年の結果を踏まえ、漁場管理の方法を改善しながら取り組んでいく。 (2) 地元消費の拡大 ① 漁協は、全漁業者と協力し、農畜水産物直売所「美菜恋来屋」へ鮮魚等地元水産物を出荷し、地元住民等の購入機会を増やす。 ② 漁協は、地元行政機関と連携して、水産まつり等イベントの開催などのPR活動により、消費拡大を図る。 (3) 資源管理と漁場環境の保全により生産量の増大 ① 全漁業者は、漁協と地元行政機関と協力し、ナマコ増殖場設置、アオリイカ産卵床設置、産卵用タコツボ設置、マコガレイ、カサゴ、キジハタ、オコゼ等の有用種の放流等の栽培漁業や資源管理の取組みに参加し、資源の増大を図る。前年の結果を踏まえ、場所や時期等を改善しながら取り組んでいく。 ② 全漁業者が、魚種の豊富な漁場を維持・回復させるため、海底耕耘、海岸清掃、施肥等、漁場環境の保全にかかる活動を推進し、稚ナマコの放流、ため池のかいぼり、各種団体で行われる森づくり活動の取組等に参加し、豊かな海の再生を図る。前年の結果を踏まえ、海底耕耘や稚ナマコ放流等の方法を改善しながら取り組んでいく。 (4) 海業により漁業者の収入の拡大 ① 修学旅行生や都市部住民をターゲットに旅行会社や地元観光業と連携し、観光地引網体験を推進することにより、漁業者の収入を増やす。
漁業コスト削減のための取組	(1) 省エネ活動等による省コスト化 ① 全漁業者は、漁場への行きかえりの低速運転、係留中のエンジン停止、不要不急な積載物の削減による船体の軽量化、定期的な船底の清掃による航行抵抗の軽減など徹底した省エネ運転を励行することにより、使用する燃費量の削減を図る。 ② 最新の省エネ技術を活用した省エネ型エンジン、省エネ機器の導入を計画的に推進する。 (2) 共同利用施設の見直し ① 漁協は、維持管理コストを削減するため、老朽化した製氷施設を再整備する。
漁村の活性化のための取組	(1) 漁業人材確保・育成 ① 地域の漁業の魅力を積極的にPRするとともに、初心者でも漁業ができるようになる研修制度を充実させて、新規漁業就業者の確保・育成を図る。

	② 新規就業者の確保、若手漁業者の育成を促進するための漁協青年部の活動を支援する。 (2) 交流人口の拡充 ① 旅行会社や観光業等の民間活力を活用した新たな海業を企画推進することにより、地域全体での観光振興を図る。 ② 漁協と若い漁業者は、観光地引網を推進することにより、地域への集客向上を図る。
活用する支援措置等	(漁船、漁業用機器等の導入) 水産業競争力強化漁船導入緊急支援事業（水産業競争力強化緊急事業） 競争力強化型機器等導入緊急支援事業（水産業競争力強化緊急事業） 水産業成長産業化沿岸地域創出事業 (漁業経営) 漁業経営セーフティネット構築事業 漁業収入安定対策事業 (共同利用施設の整備) 水産業強化支援事業 水産業競争力強化緊急施設整備事業（水産業競争力強化緊急事業） (就業支援) 経営体育成総合支援事業 (その他) 水産多面的機能発揮対策事業

3年目（令和8年度） 所得向上率（基準年比）14.3%

漁業収入向上のための取組	(1) 漁獲物の品質向上による魚価向上 ① 船びき網漁業を除く漁船漁業者は、アジ類やサバ類などの多獲性魚を初めとした鮮魚漁獲物は、漁獲時においては魚種別に容器に入れ、大量の水を使い漁獲時の施氷による低温管理を徹底するとともに、水揚げ後の選別は手早く丁寧に行うことにより鮮度保持に努める。前年の結果を踏まえ、施氷手法を改善しながら取り組んでいく。 ② 船びき網漁業を除く漁船漁業者は、マダイやヒラメなどの活魚については、高水温となる夏期には、清掃を徹底した清潔な活魚槽において、海水に酸素を供給しながら、漁協が導入している海水井戸と海水冷却機の活用により水温を20～22度として低温管理を徹底し、活力保持に努める。また、ロス（死魚）が出やすく魚価の下落に繋がるため、操業中の網からの取り入れを丁寧に行い、活魚槽に収容する際にはハリ（浮袋の空気抜き）をし、1操業で持ち帰る漁獲量の調整を行う。前年の結果を踏まえ、低温管理方法を改善しながら取り組んでいく。 ③ 船びき網漁業者は、シラスについて、1曳網にかかる操業時間を短縮し、1操業での漁獲量を調整するとともに、瞬時に大量の水でしめ、漁獲物の冷却効率を向上させ鮮度保持に努める。前年の結果を踏まえ、冷却方法を改善しながら取り組んでいく。 ④ ノリ、ワカメ養殖業者は、養殖セットの間隔を拡大して設置することで潮流がまんべんなくあたるようにしたり、海底改良剤を散布する。また、地元の農業者と協力して「ため池」に堆積した栄養豊かな泥を漁場へ供給する「かいぼり」を実施して、色落ちの発生を抑制することで品質の維持向上を目指す。前年の結果を踏まえ、漁場管理の方法を改善しながら取り組んでいく。 (2) 地元消費の拡大 ① 漁協は、全漁業者と協力し、農畜水産物直売所「美菜恋来屋」へ鮮魚等地
--------------	---

	元水産物を出荷し、地元住民等の購入機会を増やす。 ② 漁協は、地元行政機関と連携して、水産まつり等イベントの開催などの PR 活動により、消費拡大を図る。 (3) 資源管理と漁場環境の保全により生産量の増大 ① 全漁業者は、漁協と地元行政機関と協力し、ナマコ増殖場設置、アオリイカ産卵床設置、産卵用タコツボ設置、マコガレイ、カサゴ、キジハタ、オコゼ等の有用種の放流等の栽培漁業や資源管理の取組みに参加し、資源の増大を図る。前年の結果を踏まえ、場所や時期等を改善しながら取り組んでいく。 ② 全漁業者が、魚種の豊富な漁場を維持・回復させるため、海底耕耘、海岸清掃、施肥等、漁場環境の保全にかかる活動を推進し、稚ナマコの放流、ため池のかいぼり、各種団体で行われる森づくり活動の取組等に参加し、豊かな海の再生を図る。前年の結果を踏まえ、海底耕耘や稚ナマコ放流等の方法を改善しながら取り組んでいく。 (4) 海業により漁業者の収入の拡大 ① 修学旅行生や都市部住民をターゲットに旅行会社や地元観光業と連携し、観光地引網体験を推進することにより、漁業者の収入を増やす。
漁業コスト削減のための取組	(1) 省エネ活動等による省コスト化 ① 全漁業者は、漁場への行きかえりの低速運転、係留中のエンジン停止、不要不急な積載物の削減による船体の軽量化、定期的な船底の清掃による航行抵抗の軽減など徹底した省エネ運転を励行することにより、使用する燃費量の削減を図る。 ② 最新の省エネ技術を活用した省エネ型エンジン、省エネ機器の導入を計画的に推進する。 (2) 共同利用施設の見直し ① 漁協は、整備した製氷施設を活用し、維持管理コストを削減する。その他、老朽化した共同利用施設を省エネ型に再整備するか、処分をする。
漁村の活性化のための取組	(1) 漁業人材確保・育成 ① 地域の漁業の魅力を積極的に PR するとともに、初心者でも漁業ができるようになる研修制度を充実させて、新規漁業就業者の確保・育成を図る。 ② 新規就業者の確保、若手漁業者の育成を促進するための漁協青年部の活動を支援する。 (2) 交流人口の拡充 ① 旅行会社や観光業等の民間活力を活用した新たな海業を企画推進することにより、地域全体での観光振興を図る。 ② 漁協と若い漁業者は、観光地引網を推進することにより、地域への集客向上を図る。
活用する支援措置等	(漁船、漁業用機器等の導入) 水産業競争力強化漁船導入緊急支援事業（水産業競争力強化緊急事業） 競争力強化型機器等導入緊急支援事業（水産業競争力強化緊急事業） 水産業成長産業化沿岸地域創出事業 (漁業経営) 漁業経営セーフティネット構築事業 漁業収入安定対策事業 (共同利用施設の整備) 水産業強化支援事業 水産業競争力強化緊急施設整備事業（水産業競争力強化緊急事業） (就業支援) 経営体育成総合支援事業

	(その他) 水産多面的機能発揮対策事業
--	------------------------

4 年目（令和 9 年度） 所得向上率（基準年比）18.3%

漁業収入向上のための取組	(1) 漁獲物の品質向上による魚価向上 ① 船びき網漁業を除く漁船漁業者は、アジ類やサバ類などの多獲性魚を初めとした鮮魚漁獲物は、漁獲時においては魚種別に容器に入れ、大量の水を使い漁獲時の施氷による低温管理を徹底するとともに、水揚げ後の選別は手早く丁寧に行うことにより鮮度保持に努める。前年の結果を踏まえ、見直しを行いながら取り組んでいく。 ② 船びき網漁業を除く漁船漁業者は、マダイやヒラメなどの活魚については、高水温となる夏期には、清掃を徹底した清潔な活魚槽において、海水に酸素を供給しながら、漁協が導入している海水井戸と海水冷却機の活用により水温を 20～22 度として低温管理を徹底し、活力保持に努める。また、ロス（死魚）が出やすく魚価の下落に繋がるため、操業中の網からの取り入れを丁寧に行い、活魚槽に収容する際にはハリ（浮袋の空気抜き）をし、1 操業で持ち帰る漁獲量の調整を行う。前年の結果を踏まえ、低温管理方法を改善しながら取り組んでいく。 ③ 船びき網漁業者は、シラスについて、1 曳網にかかる操業時間を短縮し、1 操業での漁獲量を調整するとともに、瞬時に大量の水でしめ、漁獲物の冷却効率を向上させ鮮度保持に努める。前年の結果を踏まえ、冷却方法を改善しながら取り組んでいく。 ④ ノリ、ワカメ養殖業者は、養殖セットの間隔を拡大して設置することで潮流がまんべんなくあたるようにしたり、海底改良剤を散布する。また、地元の農業者と協力して「ため池」に堆積した栄養豊かな泥を漁場へ供給する「かいぼり」を実施して、色落ちの発生を抑制することで品質の維持向上を目指す。前年の結果を踏まえ、漁場管理の方法を改善しながら取り組んでいく。 (2) 地元消費の拡大 ① 漁協は、全漁業者と協力し、農畜水産物直売所「美菜恋来屋」へ鮮魚等地元水産物を出荷し、地元住民等の購入機会を増やす。 ② 漁協は、地元行政機関と連携して、水産まつり等イベントの開催などの PR 活動により、消費拡大を図る。 (3) 資源管理と漁場環境の保全により生産量の増大 ① 全漁業者は、漁協と地元行政機関と協力し、ナマコ増殖場設置、アオリイカ産卵床設置、産卵用タコツボ設置、マコガレイ、カサゴ、キジハタ、オコゼ等の有用種の放流等の栽培漁業や資源管理の取組みに参加し、資源の増大を図る。前年の結果を踏まえ、場所や時期等を改善しながら取り組んでいく。 ② 全漁業者が、魚種の豊富な漁場を維持・回復させるため、海底耕耘、海岸清掃、施肥等、漁場環境の保全にかかる活動を推進し、稚ナマコの放流、ため池のかいぼり、各種団体で行われる森づくり活動の取組等に参加し、豊かな海の再生を図る。前年の結果を踏まえ、海底耕耘や稚ナマコ放流等の方法を改善しながら取り組んでいく。 (4) 海業により漁業者の収入の拡大 ① 修学旅行生や都市部住民をターゲットに旅行会社や地元観光業と連携し、観光地引網体験を推進することにより、漁業者の収入を増やす。 ② 船曳網漁業者は、休漁の時期に遊漁船業の営業をすることにより、漁業収入の拡大を目指す。
--------------	---

漁業コスト削減のための取組	(1) 省エネ活動等による省コスト化 ① 全漁業者は、漁場への行きかえりの低速運転、係留中のエンジン停止、不要不急な積載物の削減による船体の軽量化、定期的な船底の清掃による航行抵抗の軽減など徹底した省エネ運転を励行することにより、使用する燃費量の削減を図る。 ② 最新の省エネ技術を活用した省エネ型エンジン、省エネ機器の導入を計画的に推進する。 (2) 共同利用施設の見直し ① 漁協は、整備した製氷施設を活用し、維持管理コストを削減する。その他、老朽化した共同利用施設を省エネ型に再整備するか、処分をする。
漁村の活性化のための取組	(1) 漁業人材確保・育成 ① 地域の漁業の魅力を積極的に PR するとともに、初心者でも漁業ができるようになる研修制度を充実させて、新規漁業就業者の確保・育成を図る。 ② 新規就業者の確保、若手漁業者の育成を促進するための漁協青年部の活動を支援する。 (2) 交流人口の拡充 ① 旅行会社や観光業等の民間活力を活用した新たな海業を企画推進することにより、地域全体での観光振興を図る。 ② 漁協と若い漁業者は、観光地引網を推進することにより、地域への集客向上を図る。
活用する支援措置等	(漁船、漁業用機器等の導入) 水産業競争力強化漁船導入緊急支援事業（水産業競争力強化緊急事業） 競争力強化型機器等導入緊急支援事業（水産業競争力強化緊急事業） 水産業成長産業化沿岸地域創出事業 (漁業経営) 漁業経営セーフティネット構築事業 漁業収入安定対策事業 (共同利用施設の整備) 水産業強化支援事業 水産業競争力強化緊急施設整備事業（水産業競争力強化緊急事業） (就業支援) 経営体育成総合支援事業 (その他) 水産多面的機能発揮対策事業

5年目（令和10年度） 所得向上率（基準年比）21.9%

漁業収入向上のための取組	(1) 漁獲物の品質向上による魚価向上 ① 船びき網漁業を除く漁船漁業者は、アジ類やサバ類などの多獲性魚を初めとした鮮魚漁獲物は、漁獲時においては魚種別に容器に入れ、大量の氷を使い漁獲時の施氷による低温管理を徹底するとともに、水揚げ後の選別は手早く丁寧に行うことにより鮮度保持に努める。前年の結果を踏まえ、見直しを行いながら取り組んでいく。 ② 船びき網漁業を除く漁船漁業者は、マダイやヒラメなどの活魚については、高水温となる夏期には、清掃を徹底した清潔な活魚槽において、海水に酸素を供給しながら、漁協が導入している海水井戸と海水冷却機の活用により水温を20～22度として低温管理を徹底し、活力保持に努める。また、ロス（死魚）が出やすく魚価の下落に繋がるため、操業中の網からの取り入れを
--------------	--

	丁寧に行い、活魚槽に収容する際にはハリ（浮袋の空気抜き）をし、1操業で持ち帰る漁獲量の調整を行う。前年の結果を踏まえ、低温管理方法を改善しながら取り組んでいく。 ③ 船びき網漁業者は、シラスについて、1曳網にかかる操業時間を短縮し、1操業での漁獲量を調整するとともに、瞬時に大量の水でしめ、漁獲物の冷却効率を向上させ鮮度保持に努める。前年の結果を踏まえ、冷却方法を改善しながら取り組んでいく。 ④ ノリ、ワカメ養殖業者は、養殖セットの間隔を拡大して設置することで潮流がまんべんなくあたるようにしたり、海底改良剤を散布する。また、地元の農業者と協力して「ため池」に堆積した栄養豊かな泥を漁場へ供給する「かいぼり」を実施して、色落ちの発生を抑制することで品質の維持向上を目指す。前年の結果を踏まえ、漁場管理の方法を改善しながら取り組んでいく。 (2) 地元消費の拡大 ① 漁協は、全漁業者と協力し、農畜水産物直売所「美菜恋来屋」へ鮮魚等地元水産物を出荷し、地元住民等の購入機会を増やす。 ② 漁協は、地元行政機関と連携して、水産まつり等イベントの開催などのPR活動により、消費拡大を図る。 (3) 資源管理と漁場環境の保全により生産量の増大 ① 全漁業者は、漁協と地元行政機関と協力し、ナマコ増殖場設置、アオリイカ産卵床設置、産卵用タコツボ設置、マコガレイ、カサゴ、キジハタ、オコゼ等の有用種の放流等の栽培漁業や資源管理の取組みに参加し、資源の増大を図る。前年の結果を踏まえ、場所や時期等を改善しながら取り組んでいく。 ② 全漁業者が、魚種の豊富な漁場を維持・回復させるため、海底耕耘、海岸清掃、施肥等、漁場環境の保全にかかる活動を推進し、稚ナマコの放流、ため池のかいぼり、各種団体で行われる森づくり活動の取組等に参加し、豊かな海の再生を図る。前年の結果を踏まえ、海底耕耘や稚ナマコ放流等の方法を改善しながら取り組んでいく。 (4) 海業により漁業者の収入の拡大 ① 修学旅行生や都市部住民をターゲットに旅行会社や地元観光業と連携し、観光地引網体験を推進することにより、漁業者の収入を増やす。 ② 船曳網漁業者は、休漁の時期に遊漁船業の営業をすることにより、漁業収入の拡大を目指す。
漁業コスト削減のための取組	(1) 省エネ活動等による省コスト化 ① 全漁業者は、漁場への行きかえりの低速運転、係留中のエンジン停止、不要不急な積載物の削減による船体の軽量化、定期的な船底の清掃による航行抵抗の軽減など徹底した省エネ運転を励行することにより、使用する燃費量の削減を図る。 ② 最新の省エネ技術を活用した省エネ型エンジン、省エネ機器の導入を計画的に推進する。 (2) 共同利用施設の見直し ① 漁協は、整備した製氷施設を活用し、維持管理コストを削減する。その他、老朽化した共同利用施設を省エネ型に再整備するか、処分をする。
漁村の活性化のための取組	(1) 漁業人材確保・育成 ① 地域の漁業の魅力を積極的にPRするとともに、初心者でも漁業ができるようになる研修制度を充実させて、新規漁業就業者の確保・育成を図る。 ② 新規就業者の確保、若手漁業者の育成を促進するための漁協青年部の活動を支援する。 (2) 交流人口の拡充

	① 旅行会社や観光業等の民間活力を活用した新たな海業を企画推進することにより、地域全体での観光振興を図る。 ② 漁協と若い漁業者は、観光地引網を推進することにより、地域への集客向上を図る。
活用する支援措置等	(漁船、漁業用機器等の導入) 水産業競争力強化漁船導入緊急支援事業（水産業競争力強化緊急事業） 競争力強化型機器等導入緊急支援事業（水産業競争力強化緊急事業） 水産業成長産業化沿岸地域創出事業 (漁業経営) 漁業経営セーフティネット構築事業 漁業収入安定対策事業 (共同利用施設の整備) 水産業強化支援事業 水産業競争力強化緊急施設整備事業（水産業競争力強化緊急事業） (就業支援) 経営体育成総合支援事業 (その他) 水産多面的機能発揮対策事業

(5) 関係機関との連携

取組効果が十分に発揮されるように、地元の南あわじ市、兵庫県漁業協同組合連合会、兵庫県水産技術センター、兵庫県洲本農林水産振興事務所から専門的な助言をもらうなど連携を強化する。また、県内外の流通・販売業者、地元観光業者・旅行代理店等とも新たな連携を図る。
--

(6) 取組の評価・分析の方法・実施体制

浜プランの取組の成果を評価・分析するため、毎年度末（3月）に開催する全員会議において、委員会事務局が策定した自己評価案を審議・決定し、次年度の取組の改善等につなげる。

4 目標

(1) 所得目標

漁業者の所得の向上 10%以上	基準年	
	目標年	

(2) 上記の算出方法及びその妥当性

--

(3) 所得目標以外の成果目標

主要魚種であるマダイの魚価単価の向上	基準年	平成30年度～令和4年度5年平均： 魚価単価 533円/kg
	目標年	令和10年度： 魚価単価 800円/kg

交流人口数の増加	基準年	平成30年度～令和4年度5年平均： 観光地引網参加人数 308人/年
	目標年	令和10年度： 観光地引網参加人数 616人/年

(4) 上記の算出方法及びその妥当性

前期浜プラン期間中、低温管理、衛生管理の徹底等による鮮度保持向上への取組を行ったが、コロナ禍の影響もあり、主要魚種であるマダイの魚価単価が基準年と比較して34%低下した。今期浜プランにおいても、他の環境に左右されぬよう上記取組を継続実施する必要がある。よって過去5ヵ年平均単価533円を基準年とし、最終年度平均単価800円（50%向上）を目指す。なお、前期浜プラン実績より本計画に無理がなく、妥当と判断する。

また、過去の地引網体験による交流人口数は、平成30年度：468人、令和元年度：313人、令和2年度：228人、令和3年度：420人、令和4年度：111人となっている。地引網体験1回あたりの人数は77人、1年あたりの地引網体験は4回であるため、目標年の回数を8回、616人とする。

5 関連施策

活用を予定している関連施策名とその内容及びプランとの関係性

事業名	事業内容及び浜の活力再生プランとの関係性
漁業経営セーフティネット構築事業	燃油高騰時の経費の増加に備えることにより、漁業支出の低減をはかり、漁業所得を確保する。
水産業成長産業化沿岸地域創出事業	燃油消費量を削減できる機関を導入することにより、漁業支出の低減を図り、漁業所得を確保する。
水産多面的機能発揮対策事業	藻場や干潟の維持・保全、植樹、魚食文化の伝承機会の提供など、水産業や漁村の持つ多面的な機能を発揮する活動に取り組むことにより、水産業の再生・漁村の活性化を図る。
競争力強化型機器等導入緊急対策事業	持続可能な収益性の高い操業体制を確立するため、被代替機と比較して生産性の向上や省力・省コスト化に資する漁業用機器等を導入する。
水産業競争力強化型漁船導入緊急対策事業	漁船漁業の競争力強化を図り、所得向上に取り組むために必要な中古漁船又は新造漁船を導入する。
経営体育成総合支援事業	就業希望者が経験ゼロからでも円滑に漁業に就業できるよう、漁業現場での長期研修を支援し、新規漁業就業者の確保・育成を推進する。

水産業強化支援事業 水産業競争力強化緊急施設整備事業	出荷する鮮魚類の品質保持等を目的とした共同利用施設の整備を行う。
漁業収入安定対策事業	水産物の安定供給を図るため、計画的に資源管理等に取り組む漁業者を対象に、漁業共済の経営安定機能等に補完する形での収入安定対策を実施する。